

久留米市社会福祉協議会

平成29年度事業報告

平成29年度の主な取り組みと決算状況をお知らせします。

地域での福祉活動の推進

○地域福祉活動を推進するため、市内を7人の職員が担当し、校区の実状に応じた地域福祉活動に取り組みました。また、個別課題にも積極的に関わり、校区コミュニティ組織等と協働して、解決に向けた支援を行いました。

○ふれあい・いきいきサロン（4ページ参照）を活性化するため、サロンを支援するボランティアアグループの研修を実施しました。新たに9つのサロンが設置され、市内でのサロン総数は、266か所になりました。



支え合い推進会議



ふれあい・いきいきサロン

支え合いの

地域づくりのために

○生活支援コーディネート（※1）を2人から4人に増員し、支え合い推進会議（4ページ参照）設置のため、校区コミュニティ組織等への事業説明や支え合い推進会議研修会を開催しました。13校区で設置され、市内での設置校区は、18校区になりました。

支援が必要な人たちのために

○6月から市内の社会福祉法人の参加を促進しながら、「ライフレスキュー久留米連絡会」（※2）を設置。生活困窮者が生活を立て直すための支援を行いました。

生活福祉資金貸付事業では614件の相談と135件の貸付申請を受付しました。また、日常生活自立支援事業（※3）で

は、139人にサービスを提供しました。

成年後見センター事業の推進

○成年後見センター業務の円滑な運営に努め、制度の普及・啓発や利用促進を図りました。延べ379件の相談を受付しました。

○市社会福祉協議会が後見人となる法人後見事業を行いました。新たに16件を受任しました。法人後見運営委員会の意見も踏まえ事業の円滑かつ適正な運営に努めました。

育てます 福祉の心

○福祉教育プログラム集や福祉教材を市内小学校・特別支援学校に配布し、学校での福祉教育を支援しました。

○学校・企業などを対象に、障害がある当事者やボランティア活動者を講師として派遣し、啓発活動に取り組みました。



小学校での講演

ボランティア活動の推進のために

○ボランティア活動の促進に向け、ボランティアセンターの基本的役割であるボランティア相談に取り組み、来所または電話等による243件の相談に対応しました。